

## 令和5年度 第7回未来ビジョン会議 要点記録

- 1 開催日時 令和6年1月16日（火）午後6時30分から午後8時まで
- 2 開催場所 伊東市役所高層棟8階大会議室
- 3 出席者 伊東市未来ビジョン会議委員6人（欠席1人）  
市長、中村副市長、岸副市長、教育長、理事、企画部長、事務局（企画課長、企画課課長補佐、企画課主査）

### 4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 市長挨拶
- (3) 意見交換
- (4) 閉会

### 5 会議概要

#### (1) 開会

企画課長から開会

#### (2) 市長挨拶

お疲れのところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。令和5年度、第7回目となります未来ビジョン会議の開催にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

昨年末のプレゼンテーションでは、素晴らしいご提案をいただきありがとうございます。本日のテーマは、プレゼンテーションのテーマでもありました、住んでみたい住んでいたいまち作りです。プレゼンテーションの内容やワークショップでのご意見等を踏まえ、皆様と意見交換ができればと願っております。

この街の未来を変える、変えられるのは私達であり、一人一人が、こういう伊東市を作りたい、という意味を込めて未来を描けば本市の未来をより良く変えることができると思います。皆様と一丸となって、夢と希望を形にできる未来の実現に向かっていきたいと考えております。ぜひ本日も忌憚のないご意見をお願いいたします。

#### (3) 意見交換

##### 【市長】

それでは早速意見交換に入ります。

住んでみたい住んでいたいまち作り、という視点でワークショップとプレゼンテーションをしていただきましたが、プレゼンテーションでは伝え切れなかったこと、あるいは全く別の観点から、皆様とごつくばらんに意見交換ができればと思います。

それではトップバッターはA委員をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

##### 【A委員】

今回、「住んでみたい、住んでいたい」というテーマで、観光の側面からではなく、自分たちや市外の人実際に住んでみたい街について議論をしてみました。その結果、公共交通機関の改善や中心市街地の活性化が重要、ということで全体発表をいたし

ましたが、地元の人々や市外から見た伊東市の魅力を強化していくことによって、活気を生み出せるのではないかと考えています。具体的な取組についてのアイデアは様々でしたが、これらの取組が郷土愛やシビックプライドにつながっていくと感じました。

#### 【市長】

公共交通やにぎわいの創出には、市役所だけではなく市民や民間事業者の皆様にも共通した意識が必要であり、また、シビックプライド、伊東市を誇りに思うことが重要と考えております。

市の政策を発表する際には、賛否が起こることもありますが、過程を丁寧に説明することで理解をいただけるものと思っております。例えば、新図書館の建設についても、様々な意見をお聞きしながら進めています。入札の結果、サイズを見直すなどの対応が必要ですが、図書館の必要性は感じていただいていると思います。また、37億円の予算のうち15億円は国の支援ですが、それも事前に説明していれば費用面についての心配は少なかったかもしれません。意見が寄せられるのは、皆さんが伊東を愛しているからだと思えます。私たちは伊東が良くなるために一生懸命取り組んでまいります。

#### 【中村副市長】

私は個人的に、伊東市の人々は少しネガティブな気がすると感じています。多くの人々が、「熱海市が成功しているのに、伊東市は何をしているのか」という考えをお持ちのようです。行政や市民の取組にも改善すべき点があるかもしれませんが、皆が伊東市の良いところを見つける、見つけあうことが重要だと思います。

最近の観光プロモーションでは、まず市民が伊東の良さや歴史的な価値を再発見する活動を行っています。これからもお互いに良い点を見つけ合い、誇りやシビックプライドを持てるようにしていきましょう。伊東に住んでみたいと思う市民が増えることを願っています。

#### 【岸副市長】

A委員はじめ気鋭の会のメンバーは、前向きでワクワクするような提案をいつもしてくれます。また、私の教育委員会時代から郷土愛についても話し合っていました。

最近の能登半島地震では、伊東市民病院からの派遣、そして市役所職員も現地に派遣しています。私は彼らがかっこいいと感じています。郷土愛には感性に訴える要素もあると思います。伊東市には素敵な人々がたくさんいるのに、それがなかなか見えないのです。伊東市は控えめだ、と言われることが多いですが、PRとしても市民に知ってもらう意味でも、気鋭の会の皆さんに心に響くPR方法を教えていただきたいと思っています。

郷土愛の反対は、嫌いや憎むことではなく、無関心やどうでもいいこと、だと思っています。未来ビジョン会議での提案についても、実現可能性や進展の可能性を考えることが重要だと感じました。A委員の意見にも共感し、嬉しく思っています。

#### 【教育長】

最近、伊東市に住んでいるアメリカ国籍の日本人の方が、伊東の素晴らしさを話してくれました。ニューヨークに住んでいらしたそうですが、そこと比べても伊東も素晴ら

しいところがあると言ってくれたので、私たちの知らない雰囲気や魅力があると感じました。自然やマリンスポーツ、ゴルフなど、素晴らしい場所がたくさんあるので、それを伝えることが重要だと思いました。プレゼンでも郷土愛についての話を聞いて、私はとても惹かれましたので、また、勉強させていただきたいと思います。

#### 【B委員】

小学校でPTAの担当をしています。今回、トランジットモールというアイデアが印象的で、これを実現したいと思いました。その中でマルシェができたり、様々な世代の人々が交流できる場を、近い未来ではなくとも、子どもたちが大人になっていく中で実現できれば良いと思っています。規模は小さくても、まずは実験的に取り組んでいければと思います。

また、伊東市にはとてもいい方が多くて、それを周りに知ってもらいたいと思っています。

#### 【市長】

トランジットモールに関連して、伊東駅前には現在、一つのロータリーゾーンしかなく、交通事業者と一般車両が混在し、トラブルや苦情も多い状況にあります。しかし、ようやく駅前の再開発について動き出すことになりました。改札口の前に広いスペースを作り、そこでイベントやお祭りを開催することができるようになる予定です。伊東駅は街のシンボルであり、現在も駅に降り立った時の街の雰囲気、味があると思いますが、一部は改善していく必要もあり、また交通の結節点や交流の場となるゾーンでありますのでしっかりと整備してまいります。

長年の議論があった中で、ついに実現できる環境が整いましたので、これから子どもたちが成長していく中で、新しい伊東駅を楽しめるそういったゾーンにできると思います。実際に取り組んでいけることが目前となりましたので、楽しみにしていただきたいと思います。

#### 【中村副市長】

トランジットモールに関連して、道路や公園を利用したイベント開催は従来ハードルが高かったのですが、最近は国の方針も変化し、これらの場所を活用して賑わいを創出することができるようになりました。例えば、道路の一部を交通を通さずにイベントスペースにするなど、コンパクトなスペースでも交流やにぎわいの場所を作ることができるようになっております。そのため、トランジットモールのようなもの、という取組も実現できる可能性があると思っておりますので、提案にもあったように前向きに検討していきたいと思っております。

#### 【岸副市長】

特に対島地区には公園が少ないため、子供たちが事故の心配なく楽しく買い物や遊ぶことができるスペースがあると良いと思っております。今、お話しいただいた中で、小規模でも試行的にやってみようという言葉が、行政に勇気を与えてくれると感じました。企画や予算などに時間がかかる中で、堅苦しくなく、何かのついでにやってみよう

という提案は、私たちにとっては大きな励みとなります。小規模なトランジットモールになるかもしれませんが、様々な企画のチャンスがあると思います。

### 【教育長】

市P連から参加いただいておりますが、八幡野小には260人ほどの児童がいて、八幡野ではコミュニティスクールの取組や地域の方を呼んで、読み聞かせもそうですが、地域の力を結集して学校を作ろう、という雰囲気があります。きっとB委員もその中に入られて、学校の交流に関わっていただいていると思います。

硬い言い方ではなく、力を抜いて自然体で教育について話すような雰囲気の方が良いのでは、と感じることもありますので、自由にやっていただいていることに感謝しています。

### 【C委員】

グループワークで自分の意見を出し合い、皆さんの意見を聞く中で、自分が大事にしているものを再認識することができ、新たな気づきも得られました。大事だな、と改めて強く感じたことは地域に対する思い入れや誇りです。皆さんの口からそれが出てきたことは、とても嬉しく感じました。ただ、具体的にどのような活動を通じてその思い入れを強めるかは、年齢や性別などによって異なるかもしれません。伊東市ならではの観光資源やイベント、お店などに注目して、伊東の魅力を知ってもらうことも重要だと思います。

グループBでは、イベント同士のコラボなど、まずは実際にやってみることで横と横のつながりで、新たに伊東の魅力を伝えること、知ってもらうこと、とても重要だと実感しました。

また、伊東の独自の魅力はあるものの、他の地域と比べると物足りなさを感じることもあります。特に若い世代はインターネットなどで新しいお店や情報を見ることがあり、身近にあれば良いと思うことが多いです。伊東の魅力を知ってもらうだけでなく、一般的に流行っているものに触れる機会や情報を得る場所も必要なと思います。

公園が少ないという話もありましたが、やはり公園がある方が良いという気持ちもあると思います。公園で家族や友達と遊ぶことも思い出になります。そういった場所をどういうふうにするのか、あるいは近隣へ案内をするのか、案内する情報を収集しやすい方法はないのか、そういったところもグループワークの活動の中で大事と感じました。

私たちは実際にITOマルシェを開催し、伊東のお店だけでなく他の地域のお店にも参加していただいております。お客様からは様々な反応があり、地元のお店が一斉に集まって楽しいという声や、普段なかなか行かないお店を知るきっかけになったという声、県外のお店で面白いものを知ったという声などを頂きました。そのような場を通じて、グループBの提案のように、様々なお店や企業だけでなく、地元の人や観光客に触れられる機会を作ることも重要だと感じました。

また、伊東市役所の活動にも注目し、こういった未来ビジョン会議に参加することで、その活動を知り、自分自身も成長する機会となりました。また、災害地の支援に駆けつけた人々の存在も知ることで、自分の街の人たち、すごいなと改めて身近に感じることもできるかと思いますので、ITOマルシェのように多くのブースにお店が出ているように、頑張っている人々、職員がたくさんいるんだ、ということにもっと触れられ

る場などがあると、お店や観光資源だけではなく、まちづくりに携わる人たちへの気持ち、というものも強くなってくるのではないかと感じました。

#### 【市長】

ほぼ毎月、定期的にマルシェを開催していただき、44回目になりましたか。コロナ禍では、持ち帰りをしていただいたり、本当に努力していただき、定着することができて感謝しています。また、地域への思い入れについては、伊東の持っているポテンシャル、たくさんあることが特徴であります。一方で日本一、というものはないかもしれませんが、なので、目立たないかもしれない、とも思うのですが、しかし、住んでいる方々はその良さを知っているからこそ、隣の町がニュースになったりして、羨ましいと思うこともあるかもしれません。が、そこを私たちも皆さんと協力してアイデアを出し合い、こんなにいいところに住んでいることに気付けるようなことをやっていきたいと思っております。

例えば、お祭りやイベントとのコラボレーションを行うということもありますので、出来るところからやっていきたいです。先日のオレンジビーチマラソンの際にも同時にITOマルシェを開催していただき、こういうことがまずはその一歩かと思えます。既存のイベント同士が日程を合わせることで、参加者に倍の楽しさを感じてもらえたのではないかと思いますので、今後も皆さんからの意見をたくさんいただきたいと思えます。

#### 【中村副市長】

ITOマルシェはコロナ前の第一回、最初の開催に市長と一緒に参加しました。大雨の中で飲んで、他のお客さんがいなくなっても楽しんでいたことを覚えています。しかし、その後コロナの影響で開催が中止されたり、飲食禁止になったりしたため、少し寂しく感じておりました。飲んで食べて会話を楽しい、ということは絶対にありますので、また参加したいと思っています。

もう一点、こういった会議に参加して市の職員の仕事ぶりを知った、というようなお話がありました。私たちの努力不足もありますが、職員の活動をもっと広く知ってもらう取組が必要だと感じました。SNSを使った情報発信は日常的になってきておりますので、イベントの周知だけでなく、こんなことをしているんだよ、といった気軽な情報や活動を知ってもらうような取組も必要なのかなと思いました。

#### 【岸副市長】

人々の魅力にどうやって気づいてもらえるか、深めるかということや、情報をどうやったら手に入れてもらえるか、という提案をいただいたことについて、私も同感です。最近のオレンジビーチマラソンでは、市長と私が立っておりましてところ、観光客の2人組が藤の広場はどこですか？と聞いてきました。市長は観光会館の前にいたので、あの川の左手と説明していたのですが、川が見えないので川はどこですか？という話になってしまいました。それで、どう説明すれば伝わるのだろうと思ったのですが、要はこういうこと一つとってみても、その場所に詳しくないお客様をどうやって楽しい場所に案内するかということのを改めて考える必要性を感じました。

また、熱海との移動の違いについて話すと、伊東を訪れる方はわざわざ来てくれるのですよね。新幹線を降りて伊東線に乗り換え、伊豆高原などに行く際には、また伊豆急に乗り換えることもあります。しかし、わざわざ来てくれた方が熱海駅に着くと、ちょっと時間をつぶすために熱海で降りる、と言います。そういった方も含め熱海の駅前にはたくさんの方がいらっしゃいますが、その中の何割かは伊東市のファンの方がついでに降りていることもあります。ついでに降りる、というだけの魅力がありますが、伊東には、わざわざ来てくれる魅力もある、とっておりますので、こういったことを一緒に考えていくことで盛り上げていけるとも思います。情報発信が伊東市にとって一番の課題だと感じていますので、また良い知恵をいただければと思います。

### 【教育長】

I T Oマルシェ、44回ということで、コロナ禍の最中も含めて開催していただきました。私も何度か参加したこともありますし、また伊豆市に住んでいる知り合いが伊東市に来た際に、マルシェをやっているからと勧めたところ、帰ってきてからとても賑わっていて本当に良かった、と言われました。伊豆市ではこのようなイベントはあまり見かけないという話で、改めてその魅力を感じました。C委員たちが開催してくれているおかげで、そういった気持ちを持つことができました。

また、キッチンカーや飲食店の出店も多いのですが、とても良いものだと思っておりますので伊豆伊東高校などでのイベントでも活躍してほしいと思いました。学校でのイベントや文化祭などに出店し、親御さんなども楽しめる場を提供できるのではないかと感じましたので、そのような意味でも、さらなるアイデアや教をいただければと思います。

### 【D委員】

まちづくりについてBグループでは交流や情報発信について話し合い、学生たちから多くの学びを得たと感じました。経営者としては、どのように人材を採用し、顧客に良いサービスを提供するかを考えます。しかし、従業員の満足度が低いと、お客様に満足いただくことはできません。市民の満足度も重要であり、市役所の方々も満足度を高めることが大切です。

私の会社でも、従来はトップダウンの組織でしたが、私の代になってからはボトムアップのアプローチを取っています。皆の力を借りてやっていこうと考え方を変えたときに、一人一人の意見をいかに形にするかということ、それを継続してやっていくこと。問題は無関心、というところです。伊東で色々なことあっても、それを他人事だと思わず、自分事として捉えることが重要だと感じました。伊東市の10年後、20年後を現実的に見せる、このままではまずいのではないかと、など市民に見せるということも必要です。

先輩方が頑張ってくれていて、他市と比較しても財政もしっかりしてきたのは、やはり危機感とかそういったものがあつたからこう変わったのかな、ということがあるので新たな投資や経済的な展望を現実的に示し、市民に認識させることが重要です。先輩方が頑張って市政の財政をしっかりとしていることは素晴らしいことです。熱海と比べても、伊東の財政状態は改善されたと言えます。学生もこれからの10年や20年を見据えて、頑張る意識を持つべきだと感じました。

移住された方々はもちろんですが、私も含めて、生粋の伊東市民がしっかりとやっていかなければならないと感じます。イベントやそれ以外の場面を通じて市役所の皆さんがどのような仕事をしているか、常時わかるようになると思えるようになります。何か実施する際には批判もあるかもしれませんが、そればかりを気にしすぎても物事は進まないと思います。そこで情報発信を続けることで市民と市役所の距離が近くなり、横のつながりや情報共有ができるようになっていくと実感をしています。我々、次の世代のためにも頑張らなければならない、40代や50代が頑張らないと、困難な状況になるかもしれません。私も市民として頑張りたいと思っています。

#### 【市長】

謙虚なお言葉でしたが、私自身も同じ思いでして、皆様に支えられて、様々な意見を聞いて、自分の立場を生かしてどう貢献できるかを考えています。社員の満足度の話から市役所職員の話もありましたが、やはり重要だと思います。やはり自分がやるんだ、作るんだ、自分が新しく取り組んでいくんだ、という気持ちを持てる環境が重要だと。

私はプレイングマネージャー、と自分で申しておりますが、プレイヤーとして、一緒に行動して新しいものを作りたいという気持ちをいつも持っておりますので、まったく同じ思いと感じました。10年後、20年後に対して悲観的な批判的な行動を取るよりも、伊東市も人口4万人を切るという試算も出ていますが、現状をさらに良くしていくためのビジョンを作りたいと考え、4月からは伊東市の100周年に向けて、理想の姿を描き、改革の第一歩とし、将来の伊東市のために何をやっていくべきか、投資していくべきか、まとめてまいります。この会議に限らず、またご意見を伺う機会があるかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【中村副市長】

ボトムアップ、というお話が出ましたが、まさに小野市長のベースにある考え方でして、この会議もそうですが、多くの方々からの意見を反映しようという姿勢で進めていますが、将来を担う若い世代の意見を重視する必要があると思っております。市民満足度調査も毎年行っておりますが、一般市民だけではなく高校生を対象にしたアンケートもまとめており、若い世代のための事業や、意見を積極的にもらうような取組が必要であると考えております。

例えば、選挙などの投票率を見ると、高齢者の投票率が高く、若い世代の投票率が低く、関心が少ないことが事実で、関心を引くような取組、期待できるような取組が必要と感じております。若い世代から意見をいただきながら頑張りたいと思っております。

#### 【岸副市長】

先だって商工会議所でもお話をさせていただきましたが、D委員の根底にある次世代のために何とかしなければ、という気持ちが前回の未来ビジョン会議の発表にもにじみ出ていました。彼らとディスカッションをする中で、その場を作る責任と、一緒に参加している高校生の意見を大切にして、そして彼らを育てていきたいと思っている、そんなことが感じられました。

私は教育委員会での経験が長いのですが、委員の皆さんや子育て世代の方から意見を伺う中で、子どもたちが安全で安心して遊んだり、勉強したりできる環境を作るとい

責任があると常々考えているところでしたので、今日、改めてこの話を伺い、仕事に対する勇気が湧いてまいりました。

#### 【教育長】

経営者としてのご苦勞も色々おありと思うのですが、そういうところを見せない、前向きなご意見をいただいて、勉強させていただいております。今、岸副市長からの話もありましたが、前回の発表の際、同じグループの高校生を前面に押し出し、発表しやすい雰囲気や機会を作られていて、若い人を育てていこうという思いを強く感じました。私は高校生と関わっておりますので、そのような機会をととてもありがたく感じております。

今後も中学生や小学生、幼稚園や保育園を含めて、様々な場面で指導していただけると嬉しく思います。本当に感謝申し上げます。

#### 【E委員】

今回、高校生として参加し、貴重な経験をさせていただきました。住んでみたいまち作りのテーマで、私は、卒業後は伊東市を離れて大学進学を考えていましたが、卒業後にまた伊東市に戻りたいかという、伊東市への印象が薄いと感じました。そのため、学生と地元の交流の場を増やせば、伊東市への印象が強くなり、戻ってきたい場所になるのではないかと思います。具体的には、直接的に施設を増やすだけでなく、交流する機会があればよいのではと思います。

高校生なので学校の授業などで地元の方や市役所の方と、現在も探究活動で少しは関わりがありますが、交流をもっと増やすことで、高校生が伊東市に戻ってきたくなるようにできるかなと思いました。また、地元の方と高校生が交流することで、学生と伊東市が協力して魅力を発信することも可能だと思いました。

#### 【市長】

ご自身の未来への道筋を立てている中で、この会議に参加いただき、改めて魅力や印象づけることの大切さを伝えていただきました。実際の統計でも、高等教育を終えた後に伊東市に戻る人の割合は低いことが数字として出ております。ただし、希望する職種が伊東市にない場合でも通勤が1時間程度という場合には、伊東市で生活をされる方もいらっしゃると思います。最近では情報系、ICT関係の産業であれば伊東市にサテライトオフィスを設置することも可能と思いますので、こういった企業誘致は現在、進めております。

移住促進の施策も行っており、効果が出ております。しかし、現時点の伊東市に、高校生が戻ってくれるだけの幅広い仕事の選択肢が足りていない部分がありますので、選択肢を広げるためにも、伊東市のポテンシャルの高いところを発信しながら、誘致をしっかりとやっていきたいと思います。このような意見をいただき、大変参考になりました。

#### 【中村副市長】

高校生と地元の方や行政との交流の場があれば、様々なつながりが生まれ、関係や印象が変わる可能性があるのでは？というご提案だったかと思います。将来、伊東市に戻

ってきても、来れなくても、伊東市への気持ちを育てるためにも、印象づけが大切で、交流によってその種を植えておくことも大切だと思いますので、そのためにも高校生の皆さんとの交流の機会を実現する働きかけをしていきたいと考えています。

#### 【岸副市長】

グループの発表の際も、先頭を切って行っていただけたという印象を持っています。緊張もされていたと思いますが、しっかりと伝わりました。また、大学に進学して将来どんな仕事に就きたいか具体的に考えられていて、伊東市役所も市民の役に立つ人がいるところで、市民のために何とかしたい、と思っている人々が集まっている場所です。自分の力を誰かのために生かしたいという思いはとても尊いことだと思います。また将来、就職する際には、伊東に戻れない可能性もあることはよくわかります。

先ほども申し上げましたが、愛する、の反対は無関心、なので、ご自分の夢をかなえるためにどこへ行こうとも、自分のルーツは伊東だ、ということや高校時代に大人たちと1年間様々な話し合いや交流をした、という経験が将来の力になると思います。東京や他の場所に移られても、伊東への応援をしていただいて、伊東はいいところなんだよ、とお友達を連れてきてもらおうとか、いろいろな形で力を貸してもらえると嬉しいです。

#### 【教育長】

授業後の夜に、この会議に参加をしていただいて本当にありがとうございます。地元と高校生との交流の場がもっとあればいいなというご意見、教育委員会としてもしっかり受け止め、何か取り組んでいきたいという思いが強くあります。

伊豆伊東高校については、静岡県教育委員会も注目しており伊豆半島の中でも、伊豆伊東高校は中心的な存在になると考えており、今後もその方針に従って取り組んでいくということです。そういった自覚をもって今後も頑張っていればと思います。

#### 【F委員】

私は市外出身で、出身地の良いところは色々出せるのですが、伊東の良さを挙げて、と言われても具体的に挙げるのが難しかったのですが、この未来ビジョン会議に参加することで初めて良いところや活動を知ることができました。

しかし、高校には私以外にも市外出身者も多いので、多くの高校生や若い世代の方々に伊東市の良さを知ってほしいと思っています。例えば、私の出身地では小学校や中学校で地域の方々から踊りや太鼓を教えてもらう機会があり、伊東でも同じように高校生等に教えてもらう機会があれば、高校生自身も良いところを発信できるのではないかと感じました。また、最近は探究活動を通じて様々なグループの意見を聞き、中高生が一緒に部活動を行ったり、伊東の魚の図鑑を作ったりといった活動を行っていき、高校生のアイデアを取り入れることで、観光や教育など多くの分野に関わり、伊東で働きたいと思う人が増えたり、異なる世代の方々との交流の機会が増えるのではないかと思います。

#### 【市長】

市外に住んでいるからこそその意見をいただいたな、と感じています。町長は先輩でもあり親しくしておりますが、やはり独自の観光政策や文化を持つ魅力的な街で、住民のシビックプライドがとても高い街です。F委員にもこの点大事にし続けてほしいですが、伊東市との関わりも深くなりましたので、伊東の魅力もどんどん伝えてほしいと思います。

自分の故郷をよく知り、それを伝えることは重要だと思います。伊豆は全てが観光地でありますので、多くの人々に訪れてもらい、ファンを増やすこと。これが私たちの未来を築くために最も重要なことだと考えていますので、今の気持ちを大切にしてほしいと思います。また、今後もアドバイスをいただければと思います。

#### 【中村副市長】

F委員の話を伺い、伊東の良さや様々なことを知りたい、という思いが伝わってきました。若い人たちは、素晴らしいなと感じました。年を重ねると、そういう気持ちが少なくなったり、忘れてしまうこともあり少し寂しいですが、若い皆さんには様々な経験を積んでもらいたいと思います。

何か、少し押し付けるぐらいに、色々な人の意見や良いことを伝えていくことも大切だと感じました。そうやって投げかけることで反応があり、その中で様々なアイデアを生み出せる場、仕組みを高校生と一緒に作れたらと思います。頑張って取り組んでまいります。

#### 【岸副市長】

本当に具体的で、やれそうなことのご意見、さらにお話を聞きたいと思いました。高校生の活動の中で、例えば三島南高校の野球部が甲子園に行った際に地元の子供たちに野球を教えていたことが評価され、光が当たった際に、これだ、と思いました。先日、商工会議所で、ニューサマーオレンジゼリーをいただいたのですが、その際も、これだ、今度、お土産を持っていく際には、これを持って皆にPRしようと思いました。このゼリー、高校生が開発したんだよ、と。こういったことが、私のシビックプライドになると思います。実は皆さんが高校生活の中で一つ一つ行っていることが伊東の応援につながっているということを忘れないでいただきたいです。

#### 【教育長】

高校生の皆さんが遅い時間まで活動してくれたことに本当に感謝しています。皆さんのご意見から、伊東独自の活動や中高の部活動で実現可能なことがありそうなので、何か取り組んでいければと強く思いました。F委員が伊東の学校へ来て、そして伊東市民や市長と対話をした、ということは、一つの思い出になると思います。いつか、こういった自分の経験を伝えることができるかもしれません。この場にいらっしゃること自体を私は素晴らしいと思いますので、今日の日を忘れずに、また皆さんの力を貸していただきたいと思います。

#### 【市長】

皆さんから貴重なご意見をいただき、そしてこの会議に参加して後悔した方はいらっしゃらないのではないかな、ということを確認でき、とても良かったです。発表や、今

日お一人お一人から伺ったご意見、必ず役立てたいと考えております。委員の任期はいつの間にか終了となりますが、このように親しくなったことを生かし、何か思うことや市の計画についても意見を頂きたいと思っております。

それでは、事務局から今後の運営について説明がありますので、それをもって終了とさせていただきます。

(4) 閉会

事務局から事務連絡

**【市長】**

今年度の未来ビジョン会議は本日で終了となります。ご参加いただきましたこと、改めて感謝申し上げます。1年間、本当にありがとうございました。

以 上